

# **くものいと No. 20**

**KUMO NO ITO**

**June 30, 1996**

**関西クモ研究会**

## くものいと20号目次

加村 隆英：	妙見山付近のクモ類目録	1
畑守 有紀：	マダラヒメグモについての1、2の観察	7
西川 喜朗：	未婚のジグモの長生きの記録	10
加村 隆英：	「兵庫県立人と自然の博物館」に納めたクモ類 (付：釜茹地獄のクモたち)	11
西川 喜朗：	Nature Studyより;ゴケグモ3題	17
	1995年度の主な活動	9
	20号に登場した関西地方のクモたち	21
	1996年度関西クモ研究会活動予定	22
	関西クモ研究会からのお願い	23

# 妙見山付近のクモ類目録

加村 隆英

関西クモ研究会では、妙見山方面で今までに4回の採集会を行いました。1994年6月5日の結果については、すでに本誌15号(pp.18-19)に掲載されていますが、それと1995年度の3回の結果を合わせてまとめておきます。

採集した地域は大阪府と兵庫県にまたがっているため、場所及び年月日ごとに分けて、採集あるいは確認されたものを★印で示しました。なお、本誌15号においては採集場所のひとつが“兵庫県川西市新滝”と記されていますが、本報告では“新滝”とその近くの地域を“黒川”としてまとめてあります。

採集会に参加された方々、同定結果を教えてくださいました方々にお礼申し上げます。

—付記—

1996年3月24日の参加者は次のとおりです。

石丸智早, 加村隆英, 清水裕行, 田中穂積, 田中和代, 西川喜明 (6名)。

1995年6月25日及び10月1日の参加者については、本誌19号(p.12)を参照してください。

科名	No.	種名	大阪府豊能郡 豊能町吉川				兵庫県 川西市黒川		
			'94	'95	'95	'96	'94	'95	'96
			6	6	10	3	6	10	3
			5	25	1	24	5	1	24
トタテグモ科 Ctenizidae	1	キノボリトタテグモ <i>Ummidia fragaria</i>	★				★		
ジグモ科 Atypidae	2	ジグモ <i>Atypus karschi</i>				★		★	
ガケジグモ科 Amaurobiidae	3	ヤマトガケジグモ <i>Titanoeca albofasciata</i>	★				★		
ハグモ科 Dictynidae	4	カレハグモ <i>Lathys humilis</i>	★	★					
ウズグモ科 Uloboridae	5	マネキグモ <i>Miagrammopes orientalis</i>		★		★			★
"	6	カタハリウズグモ <i>Octonoba sybotides</i>		★					
"	7	ウズグモ <i>Octonoba varians</i>	★				★		
エンマグモ科 Segestriidae	8	ミヤグモ <i>Ariadna lateralis</i>					★		
ユウレイグモ科 Pholcidae	9	ユウレイグモ <i>Pholcus crypticolens</i>							★



			大阪府/吉川				兵庫県/黒川		
			'94. 6/5	'95. 6/25	'95. 10/1	'96. 3/24	'94. 6/5	'95. 10/1	'96. 3/24
ヒメグモ科 Theridiidae	10	ヒザブトヒメグモ <i>Achaeearanea ferrumequinum</i>					★		
"	11	ヒメグモ <i>Achaeearanea japonica</i>						★	
"	12	コンピラヒメグモ <i>Achaeearanea kompirensis</i>		★			★		
"	13	オオヒメグモ <i>Achaeearanea tepidariorum</i>	★	★	★		★	★	
"	14	アシプトヒメグモ <i>Anelosimus crassipes</i>	★			★	★		
"	15	オナガグモ <i>Argyrodes cylindrogaster</i>					★	★	★
"	16	チリイソウロウグモ <i>Argyrodes fissifrons</i>		★					
"	17	フタオイソウロウグモ <i>Argyrodes fur</i>		★					
"	18	ヤリグモ <i>Argyrodes saganus</i>		★			★		
"	19	キベリミジングモ <i>Dipoena flavomarginata</i>					★		
"	20	カレハヒメグモ <i>Enoplognatha transversifoveata</i>	★				★	★	
"	21	ハラナガヒシガタグモ <i>Moneta caudifer</i>		★					
"	22	スネグロオチバヒメグモ <i>Stemmops nipponicus</i>							★
"	23	バラギヒメグモ <i>Theridion chikunii</i>		★			★		
"	24	ヒロハヒメグモ <i>Theridion latifolium</i>		★			★		
"	25	シモフリヒメグモ <i>Theridion lyricum</i>					★		
"	26	ギボシヒメグモ <i>Theridion rapulum</i>					★		
"	27	ムナボシヒメグモ <i>Theridion sterninotatum</i>		★			★		
サラグモ科 Linyphiidae	28	ナガエヤミサラグモ <i>Arcuphantes longiscapus</i>					★		
"	29	ツリサラグモ <i>Linyphia japonica</i>	★						
"	30	アシナガサラグモ <i>Linyphia longipedella</i>						★	
"	31	ムネグロサラグモ <i>Linyphia nigripectoris</i>	★	★	★		★		



			大阪府/吉川				兵庫県/黒川		
			94. 6/5	95. 6/25	95. 10/1	96. 3/24	94. 6/5	95. 10/1	96. 3/24
"	32	ヘリジロサラグモ <i>Linyphia oidedicata</i>					★		
"	33	ユノハマサラグモ <i>Linyphia yunohamensis</i>		★		★	★		
"	34	チビアカサラグモ <i>Nematogmus sanguinolentus</i>					★		
センショウグモ科 Mimetidae	35	センショウグモ <i>Ero japonica</i>				★			
"	36	ハラビロセンショウグモ <i>Mimetus japonicus</i>		★					
カラカラグモ科 Theridiosomatidae	37	ヤマジグモ <i>Ogulnius pullus</i>					★		
"	38	カラカラグモ <i>Theridiosoma epeiroides</i>		★					
ユアギグモ科 Symphytognathidae	39	ユアギグモ科の一種					★		
ヨリメグモ科 Apapidae	40	ヨリメグモ <i>Conoculus lyugadinus</i>		★			★		
コツブグモ科 Mysmenidae	41	ナンブコツブグモ <i>Mysmenella jobi</i>		★					
コガネグモ科 Araneidae	42	アオオニグモ <i>Araneus pentagrammicus</i>					★		
"	43	オニグモ <i>Araneus ventricosus</i>	★				★		
"	44	ムツボシオニグモ <i>Araniella yaginumai</i>					★		
"	45	チュウガタコガネグモ <i>Argiope boesenbergi</i>					★		
"	46	ナガコガネグモ <i>Argiope bruennichii</i>					★		
"	47	コガタコガネグモ <i>Argiope minuta</i>						★	
"	48	ヤマトカナエグモ <i>Chorizopes nipponicus</i>					★		
"	49	ギンメッキゴミグモ <i>Cyclosa argenteoalba</i>	★	★	★		★		
"	50	ゴミグモ <i>Cyclosa octotuberculata</i>	★	★	★		★		
"	51	ヨツデゴミグモ <i>Cyclosa sedeculata</i>	★	★		★	★		★
"	52	ワキグロサツマノミダマシ <i>Neoscona mellottei</i>						★	
"	53	ヤマンロオニグモ <i>Neoscona scylla</i>	★				★		



		大阪府/吉川				兵庫県/黒川		
		94. 6/5	95. 6/25	95. 10/1	96. 3/24	94. 6/5	95. 10/1	96. 3/24
"	54	サツマノミダマシ <i>Neoscona scylloides</i>				★	★	
"	55	ジョロウグモ <i>Nephila clavata</i>				★	★	
"	56	コオニグモモドキ <i>Pronous minutus</i>				★		
"	57	ズグロオニグモ <i>Yaginumia sia</i>	★	★			★	
"	58	サガオニグモ <i>Zilla astridae</i>		★		★		
"	59	カラフトオニグモ <i>Zilla sachalinensis</i>				★		
アシナガグモ科 Tetragnathidae	60	オオシロカネグモ <i>Leucauge magnifica</i>				★	★	
"	61	コシロカネグモ <i>Leucauge subblanda</i>	★	★		★		
"	62	キララシロカネグモ <i>Leucauge subgemmea</i>		★		★		
"	63	タニマノドヨウグモ <i>Metleucauge kompirensis</i>				★		
"	64	ヤサガタアシナガグモ <i>Tetragnatha maxillosa</i>			★	★		
"	65	アシナガグモ <i>Tetragnatha praedonia</i>	★		★	★		
"	66	シナノアシナガグモ <i>Tetragnatha shinanoensis</i>		★		★		
"	67	ウロコアシナガグモ <i>Tetragnatha squamata</i>		★	★	★		
ヒラタグモ科 Urocteidae	68	ヒラタグモ <i>Uroctea compactilis</i>	★		★	★		
タナグモ科 Agelenidae	69	クサグモ <i>Agelena limbata</i>	★		★	★		
"	70	コクサグモ <i>Agelena opulenta</i>			★		★	
"	71	ヒメシモフリヤチグモ <i>Coelotes interunus</i>						★
"	72	カメンヤチグモ <i>Coelotes personatus</i>						★
ハタケグモ科 Hahniidae	73	ハタケグモ <i>Hahnica corticicola</i>			★			
キンダグモ科 Pisauridae	74	アオグロハシリグモ <i>Dolomedes raptor</i>				★		
"	75	イオウイロハシリグモ <i>Dolomedes sulfureus</i>			★	★		★



			大阪府/吉川				兵庫県/黒川		
			94. 6/5	95. 6/25	95. 10/1	96. 3/24	94. 6/5	95. 10/1	96. 3/24
コモリグモ科 Lycosidae	76	イナダハリゲコモリグモ <i>Pardosa agraria</i>	★						
"	77	ウヅキコモリグモ <i>Pardosa astrigera</i>		★		★			★
"	78	ハリゲコモリグモ <i>Pardosa laura</i>					★		
"	79	キクヅキコモリグモ <i>Pardosa pseudoannulata</i>			★				
"	80	クラークコモリグモ <i>Pirata clercki</i>		★			★		
ササグモ科 Oxyopidae	81	ササグモ <i>Oxyopes sertatus</i>					★		
フクログモ科 Clubionidae	82	アシナガコマチグモ <i>Chiracanthium eutittha</i>		★					
"	83	ヤサコマチグモ <i>Chiracanthium unicum</i>		★					
"	84	イナフクログモ <i>Clubiona inaensis</i>					★		
"	85	ヤギヌマフクログモ <i>Clubiona yaginumai</i>		★					
"	86	キレオビウラシマグモ <i>Phrurolithus coreanus</i>		★					
"	87	ヤバネウラシマグモ <i>Phrurolithus pennatus</i>		★					
"	88	ネコグモ <i>Trachelas japonicus</i>				★			★
イツツグモ科 Anyphaenidae	89	ナガイツツグモ <i>Anyphaena ayshides</i>					★		
シボグモ科 Ctenidae	90	シボグモ <i>Anahita fauna</i>		★			★		
アシダカグモ科 Heteropodidae	91	コアシダカグモ <i>Heteropoda forcipata</i>					★		
ワシグモ科 Gnaphosidae	92	チャクロワシグモ <i>Cladothela oculinotata</i>		★					
"	93	エビチャヨリメケムリグモ <i>Drassyllus sanmenensis</i>		★					
"	94	マエトビケムリグモ <i>Sernokorba pallidipatellis</i>							★
ヒトエグモ科 Trochanteriidae	95	ヒトエグモ <i>Plator nipponicus</i>			★				
カニグモ科 Thomisidae	96	コハナグモ <i>Diaea subdola</i>		★			★		
"	97	アシナガカニグモ <i>Heriaeus mellottei</i>		★					



			大阪府/吉川				兵庫県/黒川		
			'94. 6/5	'95. 6/25	'95. 10/1	'96. 3/24	'94. 6/5	'95. 10/1	'96. 3/24
"	98	ハナグモ <i>Misumenops tricuspidatus</i>		★					
"	99	ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i>					★		
"	100	トラフカニグモ <i>Tmarus piger</i>				★			
"	101	ヤミイロカニグモ <i>Xysticus croceus</i>	★				★		
エビグモ科 Philodromidae	102	アサヒエビグモ <i>Philodromus subaureolus</i>	★	★			★		★
"	103	ヤドカリグモ <i>Thanatus miniaceus</i>	★						
"	104	シャコグモ <i>Tibellus tenellus</i>					★		
ハエトリグモ科 Salticidae	105	ネコハエトリ <i>Carrhotus xanthogramma</i>					★		
"	106	マミジロハエトリ <i>Evarcha albaria</i>	★	★			★		
"	107	ジャバラハエトリ <i>Helicium yaginumai</i>		★					
"	108	シラヒゲハエトリ <i>Menemerus confusus</i>	★	★					★
"	109	ヤサアリグモ <i>Myrmarachne inermichelis</i>		★			★		
"	110	アリグモ <i>Myrmarachne japonica</i>	★	★	★		★		
"	111	マガネアサヒハエトリ <i>Phintella mellottei</i>		★					
"	112	マダラスジハエトリ <i>Plexippoides annulipedis</i>				★			
"	113	デーニッツハエトリ <i>Plexippoides doenitzi</i>					★		
"	114	ミスジハエトリ <i>Plexippus setipes</i>					★		
"	115	カラスハエトリ <i>Rhene atrata</i>					★		
"	116	アオオビハエトリ <i>Silerella vittata</i>	★	★			★		
"	117	ムツバハエトリ <i>Yaginumanis sexdentatus</i>					★		

(訂正：本誌 15 号，19 ページ最後の行に“ヤサガタアリグモ”とあるのは，“ヤサアリグモ”の誤りです。)





## マダラヒメグモについての1、2の観察

畑守 有紀

去年のゴケグモ騒ぎの影で、マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* もあちこちで採集されたようだ（緒方,1995,蜘蛛(28)など）。マダラヒメグモはゴケグモ同様、近年になって日本に棲みつくようになった帰化種である（八木沼,1982,Atypus(80)）。これまでのところ日本での生態についてはまだあまり報告が無いようなので現在飼育中のマダラヒメグモについて報告したい。

飼育したマダラヒメグモに関するデータを表1に示す。Aの飼育容器には、直径7cm、深さ13cmのガラス瓶を、B、Cの飼育容器には、直径8cm、深さ11cmの円筒状プラスチック容器を用い、その底にティッシュペーパーを敷き、霧吹きで適宜湿気を与えた。またダンボールで作った足場を入れた。餌にはサシムシを与えた。

個体番号	採集日	採集場所	産卵日
A	1995/5/14	尼崎市尼崎小田高校	10~11月の間に3卵のう
B	1996/2/26	名古屋市名古屋港東埠頭	3/21 3/28 4/6 4/15 4/26 5/2 5/12 5/21 5/25 6/3
C	1996/2/26	愛知県海部郡飛島村埠頭	4/2 4/13 4/24 4/30 5/6 5/21 5/25 6/3

Aは5月14日に採集してから1995年12月12日に液浸標本にするまでに、3個の卵嚢を作った。しかし卵はすべて孵化しなかったため未受精卵だったようだ。そのうち2個の卵嚢の卵数はそれぞれ、15個、18個であった。10~11月にかけて産卵したが、正確な日付を記録しておらず後悔している。

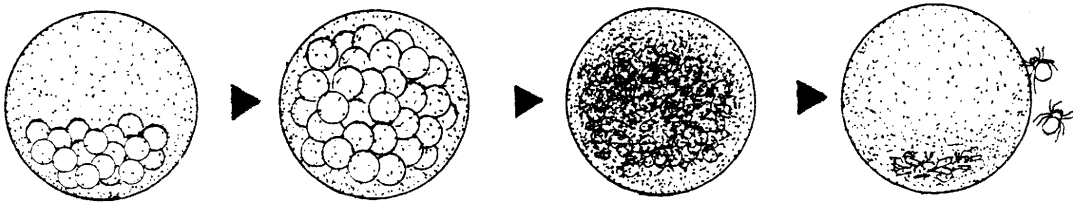
Bは2月26日に採集した後、3月21日から6月5日の間に10回産卵した。そのうち、3月21日に産卵した第1卵嚢からは、5月2日に72個体が出囊した。また3月28日に産卵した第2卵嚢からは、5月11日に63個体が出囊した。4月6日に産卵した第3卵嚢からは、5月16日に69個体が出囊した。4月15日に産卵した第4卵嚢は5月20日に、4月26日に産卵した第5卵嚢は5月29日にそれぞれ出囊し、



第4卵囊と第5卵囊から出囊した子グモは合計116個体であった。

Cは2月26日に採集した後、4月2日から6月5日の間に8回産卵した。そのうち4月2日に産卵した第1卵囊からは、5月11日に62個体が出囊した。4月13日に産卵した第2卵囊からは、5月18日に70個体が出囊した。4月24日に産卵した第3卵囊は5月25日に、4月30日に産卵した第4卵囊は5月29日にそれぞれ出囊し、合計102個体の子グモを確認した。

子グモが出囊するまでの卵囊の変化を図に示す。



卵囊の大きさは直径6.0 mmくらいで、白色の糸でできている。見かけはもよもやした綿のようで、中の卵が透けてみえる。最初、卵は白色で、卵囊の下半分に溜まっている。これがやがて薄い桃色になり、卵囊一杯くらいに膨れる。卵囊内で、孵化したのだろうか、卵囊の壁の糸越しに中の動きは分からなかった。さらに卵囊の中が黒いゴマ粒状になり、卵のう内で脱皮したと思われる。その後、出囊に至る。出囊後の卵囊の中には白色の卵の殻と薄桃色の脱皮殻とが残っていた。

卵囊から出た子グモは黄色っぽい色をしている。母親はまだ生きているが、出囊の手伝いや給餌などの子育ては一切しなかった。

ところで日本にはマダラヒメグモと同属のハンゲツオスナキグモ *Steatoda cavernicola* が生息するが、この2種は棲み分けをしているのだろうか？

まだ年間を通してマダラヒメグモの飼育を行っていないので議論をするだけのデータは集まっていない。ただ、採集したときの感覚で言えば、マダラヒメグモとハンゲツオスナキグモは生息環境が異なっているような気がする。すなわちハンゲツ



オスナキグモが、石垣などの奥まった場所にいるのに対して、マダラヒメグモは比較的開けた空間に生息しているように思うのだ。毒が無いということで見逃しがちな外来種だが、今後、どのように繁殖していくのか注目して行きたい。

種名・個体番号	生息環境	卵のう数	卵数	産卵の間隔	ハッチまでの日数	産卵時期
<i>S. triangulosa</i> A	コンクリート校舎隅	3	15~18個	未確認	不明(未受精卵)	10~11月
<i>S. triangulosa</i> B	コンクリート側溝	10	58~72個	4~11日	33~44日	3~6月
<i>S. triangulosa</i> C	コンクリート側溝	8	51~70個	4~15日	29~40日	4~6月
<i>S. cavernicola</i> *	神社の石垣の奥	3	未確認	10~17日以上	16~23日	6~7月
<i>S. cavernicola</i> (山川・熊田,1973)	川原の石の下、石垣、 木の根元	2~3	不明	不明	不明	7~8月
<i>S. cavernicola</i> (岡野,1976)	採集の時の環境は不明	不明	不明	不明	21日	5月

\* 本個体は、筆者が1995年6月4日に三重県名張市南部春日大社で採集した個体である。

## 1995年度のおもな活動

- 6月1日 くものいと第17号発行
- 6月25日 第1回採集会(妙見山方面)参加者:7名
- 7月31日 くものいと第18号「八木沼先生追悼号」発行
- 10月1日 第2回採集会(妙見山方面)参加者:15名
- 11月26日 例会(於:追手門学院大学)参加者:17名
- 12月3日 臨時採集会(セアカゴケグモ生息調査;高石市,貝塚市)参加者:12名
- 12月31日 くものいと第19号発行
- 3月24日 第3回採集会(妙見山方面)参加者:6名



## 未婚のジグモの長生きの記録

西川 喜朗

ジグモ *Atypus karschi* は「寿命は長く、5年ぐらいといわれている。」と学研の図鑑「クモ」にあるが、それ以上に長生きしている個体を観察しているので報告する。

1991年5月15日に大阪府高槻市原で採集した。体長約15mmのメスの亜成体または成体と思われる個体を、大阪府茨木市西安威の追手門学院大学の、中庭のサザンカの根本に穴を掘って放したところ、翌日に住居の巣を作った。現在もジグモは住居の巣の中に住んでいる。この間、1年に1、2度、住居の巣の一部を取り壊したが、いずれも2、3日後には修復されていた。最近では1996年2月13日に壊したが2月14日に修復され、5月10日に壊したが5月13日に修復されていた。そして6月7日にも地上部9cmの半分を引き裂いて穴をあけたが、6月8日には、裂け目は完全に修復されていた。このことから、この巣穴の中にジグモが生きていることが確認できる。この中庭の一角からは、他のジグモの個体は発見していない。ここからジグモの子グモの旅立ちも確認していない。だから、この住居に他の個体のジグモが、入代わって住んでいる可能性はない。なお、このサザンカの生け垣は、アカマツがまばらに生えている25m×13mほどの草原の端にあり、クモの餌は十分にあると思う。

以上のことから、このジグモは普通なら、1992年にはメスの成体になっていたと思う。そして、オスの訪れを待ち続けて、はや4年がたったが、いまだに未婚のままであると思われる。オスと交接をしていない未婚のメスのジグモは、非常に長生きをするのではないかと思われる。

### 参考文献

- 中原清監修, 松本誠治・新海栄一・小野展嗣, 1976. 学研の図鑑クモ. 学研, 東京.  
池田博明, 1988. クモの生理生態辞典. 著者自刊, 神奈川.



# 「兵庫県立人と自然の博物館」に納めたクモ類

(付：釜茹地獄のクモたち)

加村 隆英

少し前の話になるが、1990年度に関西在住のメンバーで兵庫県の各地にクモの採集に何回か出かけたことがある。目的は、現在三田市にオープンしている「兵庫県立人と自然の博物館」の開設準備室からの依頼に基づいて、この博物館に収蔵するためのクモの標本を兵庫県下で採集することであった。その結果についてはまだ発表していなかったので、ここにまとめておく。

この時はいずれも1泊2日で計4回の調査、採集を行った。以下に採集日程と博物館に納めた標本の目録を掲げる。(なお、1991年2月23-24日の城崎郡竹野町への採集行については、本誌9号に西条雄介さんが書かれている。)

\*\*\*\*\*

兵庫県三田市羽東山	1990年6月9日
兵庫県三田市大磯	1990年6月9-10日
兵庫県加西市朝妻町	1990年7月14日
兵庫県加西市上若井町	1990年7月14日
兵庫県加西市別府西町	1990年7月14日
兵庫県加西市岸呂町	1990年7月15日
兵庫県加西市西剣坂町	1990年7月15日
兵庫県川辺郡猪名川町上野一紫合	1990年10月13日
兵庫県川辺郡猪名川町上阿古谷	1990年10月14日
兵庫県川辺郡猪名川町銀山	1990年10月14日
兵庫県川辺郡猪名川町杉生	1990年10月14日
兵庫県宝塚市上佐曾利	1990年10月14日
兵庫県城崎郡竹野町和田	1991年2月23-24日

\*\*\*\*\*

## 「兵庫県立人と自然の博物館」に納めたクモ類の目録 (種名のあとの地名はこの時の調査で得られた標本の採集地)

### ジグモ科 Atypidae

1. ジグモ *Atypus karschi* 竹野町和田

### ガケジグモ科 Amaurobiidae

2. クロガケジグモ *Ixauticus robustus* 加西市岸呂町

### ウズグモ科 Uloboridae

3. オウギグモ *Hyptiotes affinis* 猪名川町上野-紫合, 猪名川町銀山
4. マネキグモ *Miagrammopes orientalis* 三田市大磯



5. カタハリウズグモ *Octonoba sybotides* 加西市上若井町
6. ウズグモ *Octonoba varians* 三田市大磯
- エンマグモ科 Segestriidae
7. ミヤグモ *Ariadna lateralis* 猪名川町銀山, 猪名川町杉生
- ユウレイグモ科 Pholcidae
8. ユウレイグモ *Pholcus crypticolens* 猪名川町上阿古谷
- ヒメグモ科 Theridiidae
9. ツリガネヒメグモ *Achaearanea angulithorax* 三田市羽東山
10. ヒザプトヒメグモ *Achaearanea ferrumequinum* 三田市羽東山
11. オオヒメグモ *Achaearanea tepidariorum* 三田市羽東山, 加西市西剣坂町, 猪名川町上野-紫合
12. アシプトヒメグモ *Anelosimus crassipes* 三田市羽東山, 三田市大磯, 猪名川町上野-紫合
13. シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea* 猪名川町上野-紫合
14. オナガグモ *Argyrodes cylindrogaster* 三田市大磯, 猪名川町上野-紫合, 猪名川町上阿古谷
15. チリイソウロウグモ *Argyrodes fissifrons* 加西市別府西町
16. ヤリグモ *Argyrodes saganus* 三田市大磯
17. ホシミドリヒメグモ *Chryso punctifera* 三田市大磯
18. ヨロイヒメグモ *Comaroma maculosum* 加西市上若井町, 猪名川町上野-紫合
19. ボカシミジングモ *Dipoena castrata* 三田市羽東山
20. カニミジングモ *Dipoena mustelina* 加西市上若井町, 加西市西剣坂町
21. ハンゲツオスナキグモ *Steatoda cavernicola* 三田市羽東山
22. スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus* 猪名川町上野-紫合
23. バラギヒメグモ *Theridion chikunii* 三田市大磯
24. ヒロハヒメグモ *Theridion latifolium* 三田市大磯
25. ギボシヒメグモ *Theridion rapulum* 三田市大磯
26. ムナボシヒメグモ *Theridion sterninotatum* 加西市西剣坂町
- サラグモ科 Linyphiidae
27. コデーニッツサラグモ *Doenitzius pruvus* 猪名川町銀山
28. ムネグロサラグモ *Linyphia nigripectoris* 三田市大磯, 加西市上若井町
29. シロブチサラグモ *Linyphia radiata* 加西市別府西町
30. ユノハマサラグモ *Linyphia yunohamensis* 三田市羽東山
- コガネグモ科 Araneidae
31. トガリオニグモ *Araneus pseudocentroides* 加西市上若井町
32. コゲチャオニグモ *Araneus punctiger* 猪名川町銀山
33. チュウガタコガネグモ *Argiope boesenbergi* 加西市上若井町, 加西市別府西町
34. ナガコガネグモ *Argiope bruennichii* 加西市別府西町, 加西市西剣坂



35. コガタコガネグモ *Argiope minuta* 町, 猪名川町上野-紫合, 猪名川町上阿古谷, 猪名川町杉生  
加西市別府西町, 猪名川町上阿古谷
36. ヤマトカナエグモ *Chorizopes nipponicus* 加西市上若井町
37. ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* 加西市別府西町, 加西市岸呂町
38. キジロゴミグモ *Cyclosa laticauda* 三田市羽東山
39. ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* 三田市大磯
40. ヨツデゴミグモ *Cyclosa sedeculata* 三田市大磯
41. オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne inaequalis* 加西市上若井町
42. スズミグモ *Cyrtophora moluccensis* 加西市別府西町
43. ドヨウオニグモ *Neoscona adianta* 猪名川町上阿古谷
44. イエオニグモ *Neoscona nautica* 加西市岸呂町, 猪名川町上野-紫合
45. ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* 三田市大磯, 加西市上若井町, 加西市別府西町
46. ジョロウグモ *Nephila clavata* 猪名川町上野-紫合, 猪名川町上阿古谷
47. ズグロオニグモ *Yaginumia sia* 猪名川町上野-紫合
48. サガオニグモ *Zilla astridae* 三田市大磯
49. カラフトオニグモ *Zilla sachalinensis* 三田市大磯, 加西市上若井町
- アシナガグモ科 Tetragnathidae**
50. オオシロカネグモ *Leucauge magnifica* 三田市羽東山, 三田市大磯, 加西市上若井町
51. コシロカネグモ *Leucauge subblanda* 三田市羽東山, 三田市大磯, 加西市朝妻町, 加西市上若井町
52. キララシロカネグモ *Leucauge subgemmea* 加西市上若井町
53. ヤサガタアシナガグモ *Tetragnatha maxillosa* 三田市羽東山, 三田市大磯, 加西市朝妻町, 猪名川町上野-紫合
54. アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* 加西市朝妻町, 加西市別府西町, 猪名川町上野-紫合
55. ウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata* 三田市羽東山, 三田市大磯
- ヒラタグモ科 Urocteidae**
56. ヒラタグモ *Uroctea compactilis* 猪名川町上野-紫合, 猪名川町上阿古谷, 宝塚市上佐曾利
- タナグモ科 Agelenidae**
57. クサグモ *Agelena limbata* 加西市別府西町, 加西市岸呂町, 猪名川町上野-紫合
58. コクサグモ *Agelena opulenta* 猪名川町上野-紫合
59. クロヤチグモ *Coelotes exitialis* 猪名川町上野-紫合
60. シモフリヤチグモ *Coelotes insidiosus* 猪名川町杉生



61. ヒメシモフリヤチグモ *Coelotes interunus* 三田市大磯
62. カミガタヤチグモ *Coelotes yaginumai* 猪名川町上阿古谷
- キシダグモ科 Pisauridae**
63. アオグロハシリグモ *Dolomedes raptor* 加西市別府西町
64. イオウイロハシリグモ *Dolomedes sulfureus* 猪名川町上阿古谷
65. アズマキシダグモ *Pisaura lama* 猪名川町上野-紫合
- コモリグモ科 Lycosidae**
66. ウヅキコモリグモ *Pardosa astrigera* 三田市羽束山, 三田市大磯, 加西市岸呂町, 猪名川町上阿古谷
67. ヤマハリゲコモリグモ *Pardosa brevivulva* 三田市羽束山
68. ハリゲコモリグモ *Pardosa laura* 三田市羽束山
69. キクヅキコモリグモ *Pardosa pseudoannulata* 猪名川町上野-紫合, 猪名川町上阿古谷
70. クラークコモリグモ *Pirata clercki* 三田市羽束山
71. イモコモリグモ *Pirata piratoides* 三田市羽束山
- ササグモ科 Oxyopidae**
72. ササグモ *Oxyopes sertatus* 加西市上若井町, 加西市別府西町
- フクログモ科 Clubionidae**
73. アシナガコマチグモ *Chiracanthium eutittha* 加西市上若井町
74. ヤサコマチグモ *Chiracanthium unicum* 加西市上若井町
75. イナフクログモ *Clubiona inaensis* 加西市上若井町
76. ムナアカフクログモ *Clubiona vigil* 加西市別府西町
77. イタチグモ *Itatsina praticola* 加西市上若井町, 加西市別府西町, 加西市西剣坂町
78. コムラウラシマグモ *Phrurolithus komurai* 猪名川町銀山
79. ネコグモ *Trachelas japonicus* 三田市大磯
- イツツグモ科 Anyphaenidae**
80. イツツグモ *Anyphaena pugil* 三田市大磯
- シボグモ科 Ctenidae**
81. シボグモ *Anahita fauna* 三田市大磯, 猪名川町上野-紫合
- アワセグモ科 Selenopidae**
82. アワセグモ *Selenops bursarius* 猪名川町上野-紫合
- アシダカグモ科 Heteropodidae**
83. コアシダカグモ *Heteropoda forcipata* 三田市羽束山, 三田市大磯, 猪名川町銀山
- ワシグモ科 Gnaphosidae**
84. メキリグモ *Gnaphosa kompsonensis* 三田市大磯
85. クロチャケムリグモ *Zelotes asiaticus* 猪名川町上野-紫合
- カニグモ科 Thomisidae**
86. コハナグモ *Diaea subdola* 三田市大磯, 加西市上若井町





- |  |                             |
|--|-----------------------------|
| 87. ハナグモ <i>Misumenops tricuspidatus</i>       | 加西市上若井町, 加西市西剣坂町, 猪名川町上野-紫合 |
| 88. ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i>            | 三田市羽東山, 三田市大磯, 猪名川町上野-紫合    |
| 89. アズチグモ <i>Thomisus labefactus</i>           | 加西市別府西町, 猪名川町上野-紫合          |
| 90. トラフカニグモ <i>Tmarus piger</i>                | 三田市羽東山, 三田市大磯               |
| 91. セマルトラフカニグモ <i>Tmarus rimosus</i>           | 加西市上若井町                     |
| 92. ヤミイロカニグモ <i>Xysticus croceus</i>           | 三田市大磯, 加西市上若井町              |
| <b>エビグモ科 Philodromidae</b>                     |                             |
| 93. アサヒエビグモ <i>Philodromus subaureolus</i>     | 三田市羽東山                      |
| 94. シャコグモ <i>Tibellus tenellus</i>             | 三田市羽東山, 三田市大磯, 猪名川町上野-紫合    |
| <b>ハエトリグモ科 Salticidae</b>                      |                             |
| 95. ネコハエトリ <i>Carrhotus xanthogramma</i>       | 三田市大磯, 猪名川町上野-紫合            |
| 96. マミジロハエトリ <i>Evarcha albaria</i>            | 三田市大磯, 猪名川町上阿古谷             |
| 97. ヤハズハエトリ <i>Marpissa elongata</i>           | 加西市別府西町, 猪名川町上野-紫合          |
| 98. オスクロハエトリ <i>Marpissa magister</i>          | 猪名川町上野-紫合                   |
| 99. ヨダンハエトリ <i>Marpissa pulla</i>              | 加西市別府西町                     |
| 100. シラヒゲハエトリ <i>Menemerus confusus</i>        | 猪名川町上野-紫合, 猪名川町上阿古谷         |
| 101. アリグモ <i>Myrmarachne japonica</i>          | 三田市羽東山                      |
| 102. チャイロアサヒハエトリ <i>Phintella abnormis</i>     | 加西市上若井町                     |
| 103. キアシハエトリ <i>Phintella bifurcilinea</i>     | 加西市別府西町                     |
| 104. デーニッツハエトリ <i>Plexippoides doenitzi</i>    | 三田市羽東山, 三田市大磯, 猪名川町上野-紫合    |
| 105. アオオビハエトリ <i>Silerella vittata</i>         | 加西市別府西町                     |
| 106. シラホシコゲチャハエトリ <i>Sitticus penicillatus</i> | 加西市上若井町                     |
| 107. ムツバハエトリ <i>Yaginumanis sexdentatus</i>    | 三田市羽東山                      |

\*\*\*\*\*

### 釜茹地獄のクモたち

上に述べたように、この時の採集の目的は博物館に収めるための標本を作製することであった。通常の液浸標本だけでなく、樹脂に封入した標本も作りたいというのが、博物館側の希望であった。標本の封入作業は業者が行うが、そのための前処理としてのクモの展足は私たちが行わなければならなかった。

液浸の状態で展足するにはそれなりの工夫が必要である。私は前もって少しテストを試してみた。まず、基本的には昆虫の展足と同じようなことをアルコールの中で行えばよいわ



けである。そこで、浅いプラスチックの容器に脱脂綿を敷きつめて、アルコールを注ぎ、その脱脂綿の上でクモを展足することを試みた。しかし、ふつうにアルコールに投入してクモを殺したのでは、いったんはうまく展足できたつもりでも、一晩たつと歩脚が曲がってきてしまう。つまり、歩脚がうまく伸びた状態で標本が固定されている必要があるわけである。そこで、熱湯に放り込んで殺すのはどうだろうと考えた。たまたま大学の構内で見つけたコカニグモで最初に実験してみた。すると、熱湯に放り込まれたとたんクモは歩脚をびんと伸ばして、非常に理想的なスタイルで死んでくれたのである。次にイエオニグモでもやってみた。これもうまくいった。これなら、熱湯に入れるだけで歩脚はうまく伸びるから、いちいちピンセットを用いて歩脚の形を整える必要もないと思われた。

こうして、おおまかな作業の手順のイメージができた。クモは熱湯に入れて殺すので、生かしたまま宿舎に持ち帰る。そのために、空の管瓶をたくさん用意する。熱湯を入れるための小型の鍋と湯の温度を保つための保温プレート（家庭で鍋の料理が冷えないようにするために使うやつ）も要る。あとは、平たいプラスチック容器と脱脂綿、アルコールがあれば大丈夫！

これでうまくいくはずであった。しかし、それは甘かった。たくさんのクモを熱湯に入れて殺してみると、たしかにうまくいくものもあったが、具合のわるいものも少なくなかったのである。左右の歩脚が曲がったり伸びたりして、とてもへんな形で死んでしまうものや熱湯に入れたとたん腹部が破裂してしまったり、歩脚がとれてしまうものなどが続出したのである。そのたびに、熱湯に落ちる瞬間のクモの体の向きが問題だとか、湯の温度が高すぎるとだめだから、少し低い温度でゆっくり煮たほうがいいのか、いろんなことをみんなでわいわい言いながら、何匹ものクモを釜茹地獄で殺したのである。結局、最初の私の思惑とはほど遠い結果となり、茹でて殺したクモをひとつひとつ脱脂綿の上で展足するという事になってしまった。

ともかく、私たちはいろいろと苦勞を重ねて、ある程度の数の標本を何とか展足し、その中からうまくできたもの約70個体を業者に引き渡した。それなりに手間暇をかけたのだから、きれいな封入標本ができあがることを期待した。しかし、それもまた甘かったのである。できあがって来た封入標本の多くはおおいに期待はずれのものであった。樹脂が固まる過程でクモの体表面と樹脂の間に薄い間隙が生じてしまう結果、きれいな模様のスズミグモも真っ黒なクロガケジグモも、あたかも水中のミズグモのように、ただの白っぽいクモになってしまっているのだった。もちろん、業者もいい加減な仕事をしたわけではなく、いろいろと工夫はしたようだったが、あまり満足のいく結果は得られなかったのである。

最終的に、比較的によくできた封入標本と通常の液浸標本、合わせて107種分を博物館に納めてこの仕事を終えた。みんなで泊まりがけで採集に行ったことはとても楽しかったのだが、クモの展足は思いのほか大変だったというわけである。実は、その翌年にも同様の依頼があったのだが、前年のしんどさに懲っていたので、2回目の依頼は断ったのであった。

私たちがしんどかったのもたしかであるが、でも、いちばんしんどかったのは釜茹地獄で殺されたクモたちであろう。ふだん、アルコールに放り込むときには、ほとんど何も感じないのに、熱湯に入れるときは少しばかり心が痛んでしまう。へんなものである。ともかく、この採集行に参加された皆さん、そして、クモさんたち、ごくろうさんでした!?

1995年の終わりに起きた例の毒蜘蛛騒ぎは、まだ皆さんの記憶に新しいと思います。

本会会長の西川喜朗氏が、Nature Study（大阪市立博物館発行）に当時の様子を逐一記録しておられます。今回は筆者の許可を得て、転載させていただきます。

## 毒蜘蛛に注意！ セアカゴケグモが大阪に上陸 西川 喜朗

〈Nature Study41(12),1995〉

今まで、日本ではクモに咬まれてヒトが死んだ記録はありません。ところが、最近セアカゴケグモという強い毒を持っているクモが、大阪府高石市の埋立地で発見されました。埋立地の高砂町の工場に勤務されている本会会員の竹田吉郎さんが、見えないヒメグモを、9月11日に採集されて博物館に届けられたのが最初の一頭です。10月8日に、私はそのクモを見てびっくりしました。日本では生息が確認されていなかった、ゴケグモの一種だったのです。

ゴケグモのなかまは、6種があり、いずれも熱帯と亜熱帯地域にひろくすんでいます。なかには毒の弱い種もあります。この標本は、すこし色があせていて、正確な種名がすぐにはわかりませんでした。私はさっそく、10月10日に付近一帯を一般道にそってさがしましたが、一頭も発見することが出来ませんでした。ところが、竹田さんは同じ敷地内の800mはなれた場所で、10月8日に2頭目のメスの幼体を採集されました。このクモは10月19日に脱皮して成体となり、セアカゴケグモ *Latrodectus mactans* と確認することができました。竹田さんのその後の調査では発見されませんでした。11月15日に山本博子さんと川副昭人さんが同工場の入口で、雄1頭をふくむ計4頭を発見されました。

そして、11月19日には、竹田さんに案内をしていただいていた、本会有志が総勢10名で同工場内を調査したところ、建物の隅、道路の側溝内やドブのふたの裏、色々なコンクリートブロックのすき間などから、雌雄成体幼体あわせて約50頭、卵のう約20個を採集しました（図3）。埋立地内のすべての一般道ぞいでは、4頭が採集されました。さらに、本上がわの高石市千代田2丁目の墓地でも、泉石の花立ての横の幅数cmのタテのすきまにも多数の個体が発見されました。

特徴 ハンゲツオスナキグモに近い種で、ヒメグモ科の一種。セアカゴケグモのメスの体長は約1cm。全身ほとんど黒色で、球形の腹部の背面中央に赤色の帯がよく目立つ（図1）。腹面にも四角形または砂時計型の赤い模様がある。オスは体長4～5mmで、腹部は細く、黒色または濃い褐色、腹部背面の赤色の帯に白いふちどりがあり、横に八の字形の白いすじが数本見られるものが多い（図2）。幼生は小さく、褐色のものも多く、オスと似た模様の個体が多い。

生態 アミ（クモの巣）は、公衆便所やアパートの入口などの隅によく見られるオオヒメグモ（世界に広く分布）のような不規則アミで、屋外の物置き小屋や玄関の外の隅や、庭石の間やくぼみなどのほか、便所や水さし



図1：セアカゴケグモのメス（春沢圭太郎評議員撮影）。



図2：セアカゴケグモのオス（桂孝次郎評議員撮影）。

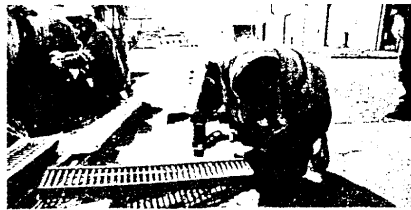


図3 本会有志による高砂町での調査（11月19日に桂評議員撮影）。の如露の中にいた報告もある。糸はハンゲツオスナキグモのように強く、小さな枯葉などのゴミをつけている個体が多かった。攻撃性はないので、素手をつかまえないかぎり、咬まれることはない。驚かされると落ちて足をちじめて死んだふり（擬死）をする。オスは咬まない。交接（交尾）後にメスはオスを食べることがある。

上陸経路 おそらく、熱帯地方から来た船の積荷について、高石市かその周辺の港から入って来たと思われる。いわゆる人為分布の種であり、そのうえ、死亡例が多い有毒のクモであるので、できるだけ早く退治しておくことが望ましい。11月19日の調査結果から、このクモは2、3年前には上陸していた可能性が高い。

死亡例 セアカゴケグモによる被害は、アメリカ南部からメキシコにかけてや、オーストラリアなどで報告例が多く、死亡率は3%、4%、5%、そして12%という報告例がある。オーストラリアのタスマニアでは、この



クモがいるが死亡例はない、このクモの多い地域では、治療薬の血清を常備している所も多い。

セアカゴケグモは、大阪湾ぞいや、ほかの港町でもすみついているかも知れません。今後も調査を続けますが、もしそれらしきクモが採れたら、大阪市立自然史博物館昆虫研究室にご連絡下さい。このクモがいそうな所では、絶対に手でつかまえないで下さい。軍手をはめておれば大丈夫です。大阪府の環境衛生課には、早急に血清を準

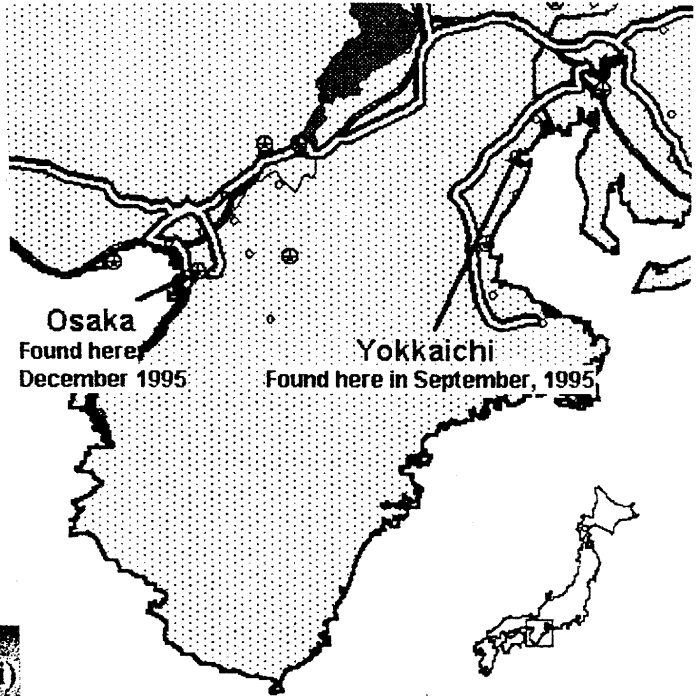
備していただける様に申し伝えてあります。

最初にこのクモを発見され、工場内の調査の機会を与えて下さった竹田吉郎さんと、心よく調査にご協力いただいた工場の方がたに厚く感謝いたします。さらに、11月19日の調査にご協力いただいた大塚正弘、奥野晴三、杜孝次郎、金沢至、冨永修、春沢圭太郎、山野忠清、山本博子の各氏に厚くお礼申し上げます。

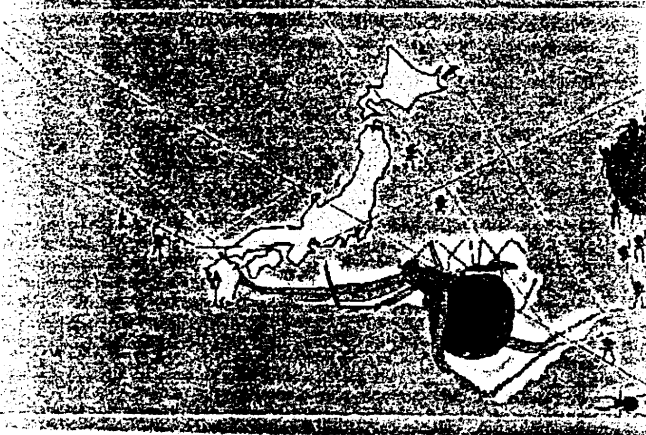
<にしかわ よしあき：本会副会長>

おわび：NATURE STUDYには、きれいなカラー写真によるセアカゴケグモ、ハイイロゴケグモが掲載されていたのですが、本誌のコピー印刷できれいに印刷できなかったので編集で省略させて頂きました。美しいカラー写真がみたい！という方は大阪市立博物館までお問い合わせ下さい。

\*大阪市立自然史博物館：大阪市東住吉区長居公園



### Redback Spiders (*Latrodectus hasseltii*)



QUEENSLAND MUSEUM ARACHNOLOGY HOMEPAGEより  
(R. RAVEN氏による)



1995年9月11日に、本会員の竹田吉郎さんが高石市で最初のセアカゴケグモを発見された後、11月19日の調査で多数のクモが発見されました。

このことは、11月23・24日に新聞やテレビ・ラジオを通じて大きく報道され、大変な騒ぎになりました。11月25日以降、高石市から始まった調査は、近隣の市町村、そして泉南地域一帯に広げられました。また、大阪府下の他の市町村だけでなく、日本各地の港湾都市でも調査が進められました。

今回は、Nature Study 1995, 12月号に書かなかったことと、その後の知見もお知らせします。

#### クモの特徴

大きくなったメスは、もうご存じのように、黒くて、腹部背面に真っ赤なタテ長の斑紋があります。オスや若いメスは、茶色っぽくて腹部側面に白い縞模様が目立ち、同じ様な場所によく似た巣を張るオオヒメグモに似ていますが、腹部裏側の中央部に四角形か砂時計形の赤い斑紋があるので区別できます（もちろん大きなメスにもあります）。ただし、この腹部裏側の斑紋は薄色で白に近い個体もあります。

#### 日本における生息地

古くは、1953年に沖縄県の石垣島で、また1955年に同じく西表島で見つかった記録があるだけで、その後は確認されていませんでした。

大阪府下で生息が確認されているのは、1995年12月24日現在、12市2町（堺市・高石市・泉大津市・忠岡町・和泉市・岸和田市・貝塚市・泉佐野市・泉南市の湾岸地帯と大阪市・東大阪市・八尾市・富田林市・熊取町の内陸部）となっています。大阪府以外では、三重県四日市市の主として湾岸の工場地帯で発見されています。

なお、沖縄県の浦添市と那覇市から発見されたクモは、別種のハイイロゴケグモ（brown widow）*Latrodectus geometricus*で、横浜市でも見つかりました。生息場所

日本で発見されているのは、すべて建物の外側で、家の中から見つかったことはありません。屋外でも、南向きの日当たりの良い場所に限られるため、ビルや家が密集している所からはほとんど見つかっていません。卵のうを持ったメスを含めて多数のクモが発見されているのは、芝生や花壇のような草地在り周囲にある広い場所の、最も日当たりの良い所の溝のフタの裏です。少なくとも片側には草の生えた地面があり、溝には流れ込んだ土砂が少したまって、餌になる昆虫や小さな動物がたくさんいる所です。ですから、埋め立て地や造成地、あるいは学校のグラウンドや公園の野外スポーツ施設から見つかる

ることが多いでしょう。溝のフタも、格子やスリットの入った鉄フタが巣を造りやすいようです。このような繁殖場所の周辺では、コンクリートブロックのくぼみや穴、水抜き管にもたいてい住みついています。また、自動販売機や照明施設のような熱源があって冬越しをしやすい場所にもいます。ただし、地表面に近い場所に多く、高いところからはほとんど見つかりません。コンクリートの建造物の基礎やブロックのくぼみ、古タイヤの内側などの、目当たりが良くて雨風にさらされやすい所にいるのは、新たに住みついたのでしょう。逆に、街中の小さな墓地や公園、樹木の育った緑地、雑草の生い茂った空き地などからは、まったく見つかりません。

ハイイロゴケグモも、発見の報じられた時、ちょうど沖縄に居合わせた富永が探したところ、まったく同じ様な条件の場所から多数見つけることができました（浦添市那覇新港、1995年12月5日、2♀2♂4Y、富永採）。どうして日本に上陸したか

セアカゴケグモはアラビア・インド・中国南部・フィリピン・スンダ列島・マクロネシア・ポリネシア・オーストラリア・ニュージーランドなどから記録があり、これらの熱帯・亜熱帯地域に広く分布しています。これらの南方地域から来た船の積荷やコンテナ、パレットなどに着いて来たのだらうと思われます。そのメスの産んだ卵のうか、ついてきた卵のうからかえった多数の子グモが、日当たりの良い場所の側溝などに住み着いて繁殖を繰り返す、次第に周辺に広がっていったのでしょう。

1匹のメスは、ふつう1回で100~200個あまりの卵を産み（吉倉、1987）、それを直径約1cmの卵のうに包んでいます。卵のうの色は乳白色（オオヒメグモの卵のうは茶色っぽい）です。今回の調査では、1匹のメスの巣についていた卵のうは最大6個で、大きさは直径約6~10mmでした。卵のうの多くは、子グモがかえって空になっていましたが、子グモがかえって巣の周辺にいたり、持ち帰った卵のうから翌日にかえった例もあり、条件さえ良ければ季節を問わず繁殖を繰り返しているようです。1つの卵のうの卵数は、今回の資料では、88個と177個のものがありました（山野忠清さんの調査）。

#### 毒の強さ

前号では、死亡率は3~12%の報告例があるとしましたが、咬まれた人の数をどのように集計するかによって、死亡率は大きく変わります。オーストラリアでは、1959年までに、少なくとも13人が死亡しています（Mas-cord, 1970）。アメリカの別亜種のクロゴケグモでは14年間に1726件の刺咬例があり、うち55人が死亡しています（小野、1993）。



症状としては、激痛・苦痛・発汗・吐き気・肺れ・呼吸困難・血圧上昇・手足の硬直化などだそうです。

今回、マウスに高石市産のメスグモを使った大阪府立公衆衛生研究所の毒性試験結果では、「セアカゴケグモの毒性は比較的弱く、ヒトが咬まれても死ぬようなことはない。しかし、幼児・心臓の悪いヒト・老人などの場合は重症になる可能性がある。症状の進行はゆっくりしており、血清も有効であるので十分な対応が可能である。」とのこと。ただ、外国では夏期に被害例が多いので、夏期には毒が強いということも考えられます。オーストラリアでは、1956年に血清が作られてからは死亡者は出ていません。

#### 外来動物から帰化動物へ

11月24日の時点では、このセアカゴケグモは人為分布による外来種であり、ヒトの死亡例もあることから、日本に定着してしまう前に退治してしまおうという方針で、駆除作業が行われました。しかし、調査が進むにつれて、広範囲に生息しており、場所によっては多様な環境に進出して、完全に撲滅することはもはや不可能であると判断されました。しかも、同じ様な場所に住んでいるオオヒメグモ・メガネヤチグモ・クロガケグモなどは、すでに適当な「すみわけ」をしているように思われます。おそらく埋立地や造成地のバイオニアとなっていて、とりたてて先住のクモ達を襲い、彼らの生活場所を奪って

いるようには見えません。

したがって、毒グモであるからといって、むやみに殺虫剤をまくと、環境を汚染するだけでなく、天敵となる他の昆虫やクモを殺してしまいます。その後に、セアカゴケグモが先に住み着いて、逆に、増えてしまうかもしれません。退治したいときは、割り箸でつまみ出して殺すか、見るのも触るのもイヤという人は、せいぜい家庭用の殺虫剤程度で済ましてください。できれば、見つけた場所や年月日、採集者名を記録してアルコール漬けの標本として残し、今後、このクモが日本でどう住み着いていくか観察していただければ幸いです。

#### 今後の対応

完全な駆除が難しく、日本の生態系に、そう悪いこともしていないようなので、身近な毒虫の一つとして登録し、「真っ黒で、赤い紋のあるクモ」には素手で触らないようにしましょう。日本には、ほかにも毒のある動物はたくさんいます。マムシ・スズメバチ・ムカデなどとともに、毒のある動物として注意し、事故のないようにしましょう（セアカゴケグモは、決して襲って来ないのですから!）。私たちは、こういう毒のある動物達にも市民権を認めて、このクモと共存していくしかありません。

<にしかわ よしあき：本会副会長>

<とみなが おさむ>

本会会員、〒630 奈良市芝辻町4-1-15-312>

## ハイイロゴケグモも大阪に上陸

セアカゴケグモ *Latrodectus mactans* が大阪府下で多数発見されましたが、それと同じ属の別種、ハイイロゴケグモ *Latrodectus geometricus*

が、大阪市の南港で発見されました。発見された場所は、日当たりのいい花壇のふちのコンクリートのくぼみの部分でした。

ハイイロゴケグモは、熱帯・亜熱帯地域に広く分布し (Itow, 1942)、毒の量・毒の強さは他のゴケグモ類より少ない (Levi, 1968; Gertsch, 1949) とのことです。かまれた被害の例もないようです。

ハイイロゴケグモの特徴は、体長はメスで6-7mm、オスで3-4mm。体は茶色または灰色で黒っぽい胴体もあります (Levi, 1968ほか)。腹部背面の正中線上に白い点か4個あり、その両側に小さな黒い点と、この黒い点を取り囲むように白いすじが後側方へと流れています。腹部裏面には、他のゴケグモ類と同様に、砂時計形のうすい赤色の斑紋があり、足は灰色で、各節の先端部は濃い茶色です。卵のうは球形で、縮毛がけばだつて金平糖状に見えます。

## 西川 喜朗

### <Nature Study 42 (1), 1996>

本種は今のところ、大阪では1頭しか発見されていません。

セアカゴケグモの駆除作業の時には、クモを発見したい、薬剤散布で殺されてしまって、共存するのに参考になるデータや外来性のクモの生活史など、ほとんど調べられなくなってしまいました。私たちは、今後、ハイイロゴケグモの生息域の調査をはじめ、日本における越冬の可能性、卵から成体までの成長・産卵などの生活史の解明などの調査を続ける予定です。

採集データは以下の通りです。

大阪府大阪市住之江区南港、1995年12月10日、1♀、桂孝次郎採集。

追記：同地点、1995年12月17日、29頭、西川・桂ほか採。

<にしかわよしあき：本会副会長>

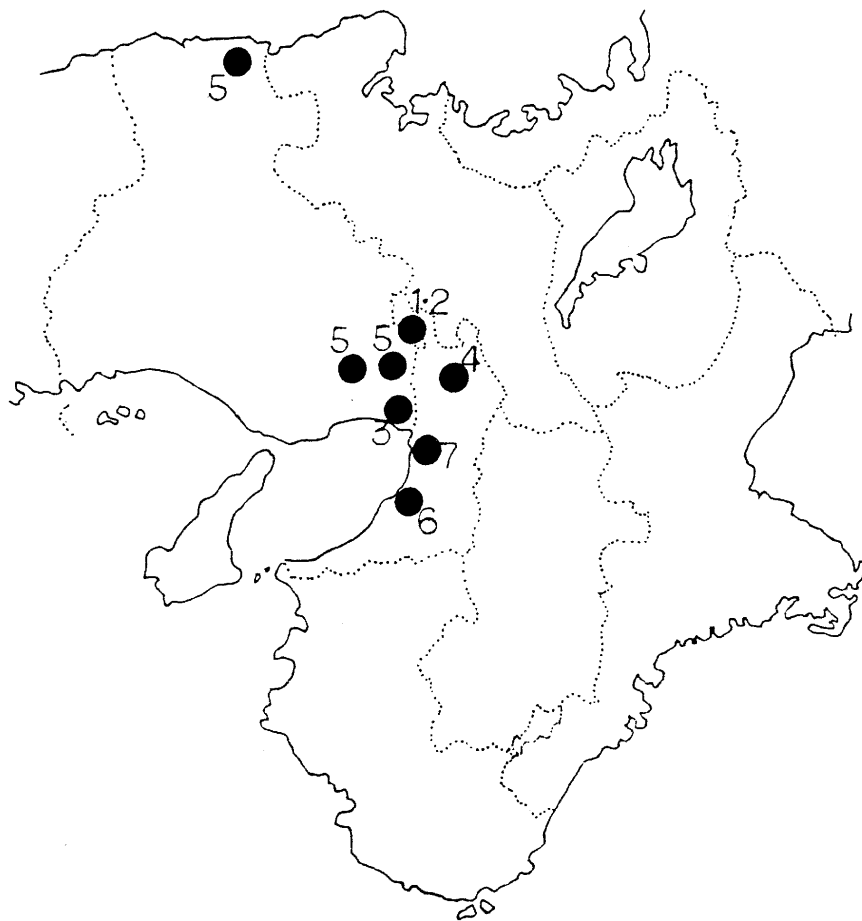
<かつらこうじろう：本会評議員>



## 20号に登場した関西地方のクモたち

関西地方のクモのファウナはあまり報告されていません。そこで前号からしばらく、

「くものいと」に登場した関西のクモを地図に載せてみることにしました。採集場所と採集日ははっきり記録されているものであれば、編集で地図にプロットします。「我が家で採集したクモ」も立派なファウナ調査の一部です。クモを採集したら、ぜひ記録を「くものいと」までお寄せ下さい。



- ① 大阪府豊能郡豊能町妙見山／採集リスト (117種) 1994/6/5 '95/6/25 10/1 '96/3/24 1p.
- ② 兵庫県川西市黒川 /採集リスト (117種) 1994/6/5 '95/6/25 10/1 '96/3/24 1p.
- ③ 兵庫県尼崎市尼崎小田高校／マダラヒメグモ 1995/5/14 7p.
- ④ 大阪府高槻市原 /ジグモ 1991/5/15 10p.
- ⑤ 兵庫県三田市・加西市など／県内採集リスト(107種)1990～1991 11p.
- ⑥ 大阪府高石市 /セアカゴケグモ 1995/9/11 17p.
- ⑦ 大阪府大阪市住之江 /ハイイロゴケグモ 1995/12/17 20p.

# 1996年度関西クモ研究会活動予定

## ★採集会★

今年度は奈良方面で地点を毎回かえて採集を行うことになりました。奈良県のクモのファウナは不明な点も多く、珍品の採集も期待できるかも(!?) 知れません。多数の参加者を募ります。

### 第1回採集会

既に案内を送っています。

### 第2回採集会

場 所 : 未定

日 時 : 10月6日(日)

### 第3回採集会

場 所 : 未定

日 時 : 1997年3月23日

\* 未定の部分については決定しだい、追って連絡致します \*

## ★例会・発表会★

日 時 : 12月15日(日) PM1:00~

場 所 : 四天王寺高等学校

内 容 : 発表者を募ります。

## ★採集合宿★

今年は1泊2日で採集会を企画しています。普段の日帰りの採集では物足りなかった方も、一度ご家族で参加してみませんか? もちろん、日曜日の1日だけの参加や、土曜日の晩からの参加も歓迎します。

日 時 : 9月7日(土)~8日(日)

場 所 : 兵庫県日高町

費 用 : 宿泊費は6500円くらいの所を考えています。

\* 詳しくは追って連絡致します \*





---

## 『くものいと』の原稿を募集します

---

関西クモ研究会では年2回、会誌を発行しています。地方同好会誌の利点の一つはいろんな事が気軽に書けることだと思います。どんな些細なことでも結構です。案外それが大発見に繋がることもあるはずですよ。どんどん原稿をお寄せください。

- ★原稿内容は、論文、記録、感想、紀行文、質問など、何でも結構です。
- ★原稿が手書きの場合は編集で打ち直します。
- ★原稿をワープロで打つ場合はB5サイズに35×35を目安にしてください。また、編集作業の簡略化のため、MS-DOSのTEXTに落としたフロッピーを同封していただけると幸いです。
- ★次回『くものいと21号』は12月発行の予定ですので、11月30日を締め切りとさせていただきます。原稿の宛て先は下記をお願いします。

吉田 真 〒525 滋賀県草津市野路 1916

立命館理工学部 生物地球科学研究室



<関西クモ研究会>

会長	西川 喜朗
編集	吉田 真 畑守 有紀
庶務	加村 隆英
会計	山野 忠清

くものいと 20号

発行年月日 : 1996年6月30日

発行者 : 関西クモ研究会 (代表 西川 喜朗)

住所 : 〒567 大阪府茨木市西安威2-1-15  
追手門学院大学 生物学研究室内 ☎ 0726-43-5421  
(内線 5113 西川研: 5106 加村研)